

10月29日 Country Report5

第2週は、4人のグループに分かれて振り返りを行いました。各グループは以下の三つのトピックについて議論しました。一つ目は今週 JICA 研修を通して学んだこと。二つ目は参加国で共通して浮かび上がってきた課題は何か？また、各国はどのように対応し、どのような対策を講じたのか？三つ目は日本では現職教員の研修が重視されており、その理由は何か？また、参加者の国で INSET(現職教員研修)を導入・推進することの妥当性や実現性をどのように考えるか？(黒田先生の講義より)。

グループでのディスカッション終了後、全体での共有が行われ、まず、グループ1からは、各国で共通していた課題として学校の数の不足、ドロップアウト率の高さなどが挙げられました。その対処方法として、インフラ整備やノンフォーマル教育の充実が述べられていました。

次に、グループ2からは各国で共通していた課題として、ドロップアウト率、コロナ渦における教育の質の低下などが挙げられました。その対処方法として、学校に行くことができていない子どもたちだけではなく、教員に対しての動機づけを行うことや、コロナ渦での学習法に関しては、オンラインでの学習を促進するために、システムを構築したり、農村部の子どもへの配慮を行ったりすることが必要であると述べられていました。また、教員研修については、カンボジアを例に、教員研修は教員の質の向上のためにとっても重要であり、教育機関や、教員養成のカリキュラムの改善、改定が必要であると述べられていました。また、この後には、JICA が教師の能力向上に向けて行っている活動についてなども参加者の中で議論が行われました。

そして、グループ3からは、質問に対して、大きく2つのポイントに分けて回答が行われました。一つ目は、教育課題について。アクセス、公平性の担保と、教育の質という課題が挙げられ、共通する現状について述べられていました。二つ目は、教員研修についてでした。各国の教員における課題を解決するために、日本の組織的なシステムや構造をモデルにするべきであると述べられていました。発表後は、グループのメンバーから読み書き能力が低いことや、教育機会の不平等なども追加で課題として挙げられました。

各グループからの共有が終わり、まず石田先生からは、「オンラインという難しい状況の中でも、ディスカッションや発表が行われていて素晴らしかった、来週からもたくさんのごことを学んでいきましょう」というコメントをいただきました。そして、日下部先生からは、「明確な数字を使ってわかりやすいプレゼンテーションだった」というコメントがあり、多

くの国で定量的な問題があげられていることから、どのように解決するのが大切であり、それに基づいてバングラディッシュでの研究の例を説明していただきました。

